

描き

描き
習

テキスト

描き講習 テキスト

デッサンを始めるにあたり

準備物

- **スケッチブック** (F6サイズ:410mm×318mm 程度のもの)

A3サイズとほぼ同じ大きさなのでA3のスケッチブックでも構いません。

- **鉛筆** (2H~4B程度)

鉛筆は右の写真のようにカッターナイフで削り、芯を長く出し先端を鋭く尖らせておくと描きやすいです。

- **練り消しゴム**

手で自由に形を変え、平たくした状態で優しく画面に触れれば、ほんのりと明るくすることができます。また、先端を鋭く尖らせて、強く画面に当てれば、ハイライトをつけることができます。練り消しゴムは、白い鉛筆だと思って使ってください。



F6のスケッチブック



練り消しゴム



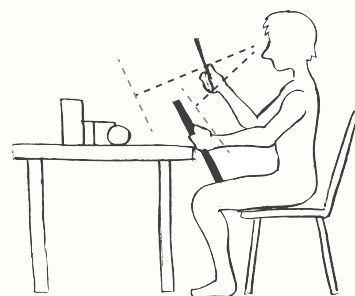
鉛筆

姿勢

POINT
1

モチーフ台の机と椅子の間隔を空けよう!

デッサンでは常に画面全体の中でどう見えているのかを意識することが重要です。そのためには、画面まで腕をピンと伸ばせるほどの空間を空けるようにしてください。



POINT
2

モチーフと画面が同時に見える位置に!

スケッチブックは、膝の上で机に立てかけるようにして置き、モチーフと画面の両方が同時に見えるように位置関係を設定してください。また、目線はモチーフと画面のどちらにも垂直に当たるように意識しましょう。

POINT
3

頭の位置は動かさない!

背筋は常にピンと伸ばした状態を保つようにしてください。そうすることによって、頭の高さが常に一定の位置に固定されるため、見る位置も一定になり常に正しい形を確認することができます。

構図

POINT
1

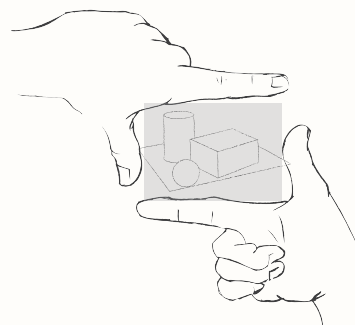
画面を意識してモチーフを組みましょう!

デッサンでは構図がとても重要です。構図の良し悪しで全体の印象が大きく変わります。モチーフを組む際には必ず、画面の中にどう収めるかを意識して組むようにしてください。親指と人差し指で枠を作り、前後上下左右に動かしながら構図を検討してみると良いでしょう。

POINT
2

画面の中での上下左右の空き具合を意識する!

構図を決める際には、画面の中での上下左右の空き具合を確認してください。広く空き過ぎてても狭く詰まり過ぎててもよくありません。全体のバランスをよく考えながら、空き具合を調整してください。



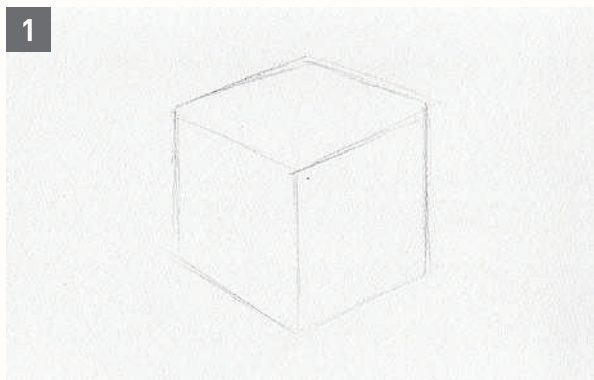
このテキストは初心者の方でもデッサンの練習ができるように作成したテキストです。3つの課題で構成されており、STEP1からSTEP3に向けてレベルアップできる内容になっています。また、テキストを基にデッサンを描き、入学試験の「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」の「自己作品」にすることが可能です。皆さんの受験対策、実力向上にお役立てください。

なお、描いたデッサンの添削をご希望の方は、「描き講習【オンライン型】」をご利用ください。

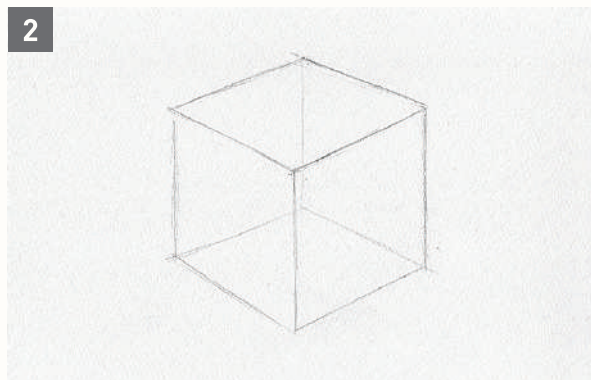
添削後のデッサンも「自己作品」にすることができます。

手順

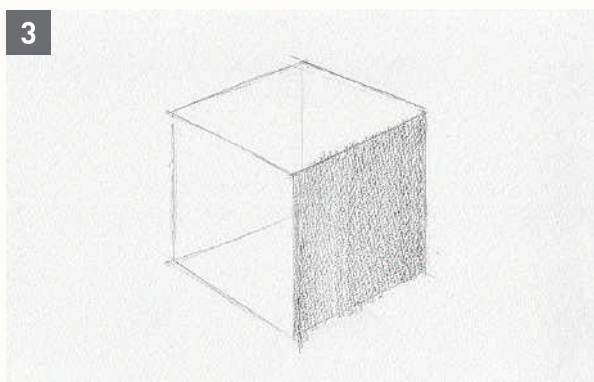
ここに簡単な描き方の手順を示します。参考にしてください。



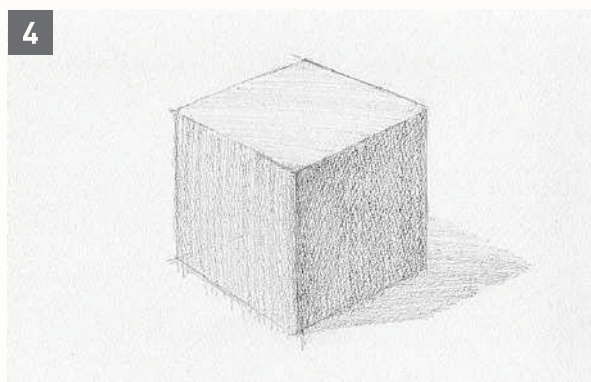
まずは大まかな形を描いていきます。直線をフリーハンドで描けるよう練習しましょう。形を直しやすいように最初は鉛筆をあまり立てずに寝かせて描くと良いでしょう。



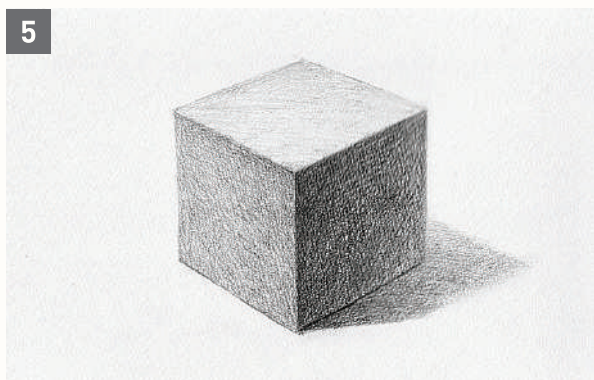
徐々に形を整えていきます。透明な箱を描くように奥の見えない線も描くことで形の狂いがはっきり見えてきます。根気よく直していきましょう。



光がどちらから当たっているのか決めて、陰側から調子をつけていきます。輪郭線からはみ出ずらい思い切り描きましょう。



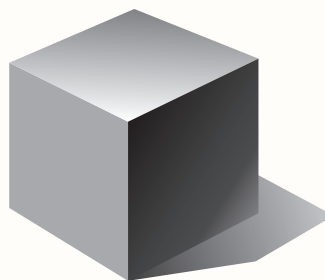
全体に調子をつけていきます。一番暗い面と一番明るい面それぞれ対比しながら徐々に色を濃く描いていきます。地面に落ちている影も同時に描いていきます。



全体的に調子を整えて完成です。

POINT

各面の中は同じ色だと遠近感が出ません。一番手前の角をコントラストが強く見えるよう調整します。陰の中には反射光が存在するので地面に近い奥側は少し明るくしておきます。



実践デッサン STEP 1

モチーフ

●箱状のもの 1個

例：お菓子の空箱、小包の梱包箱、ティッシュ箱、四角い小物入れ、辞書 など

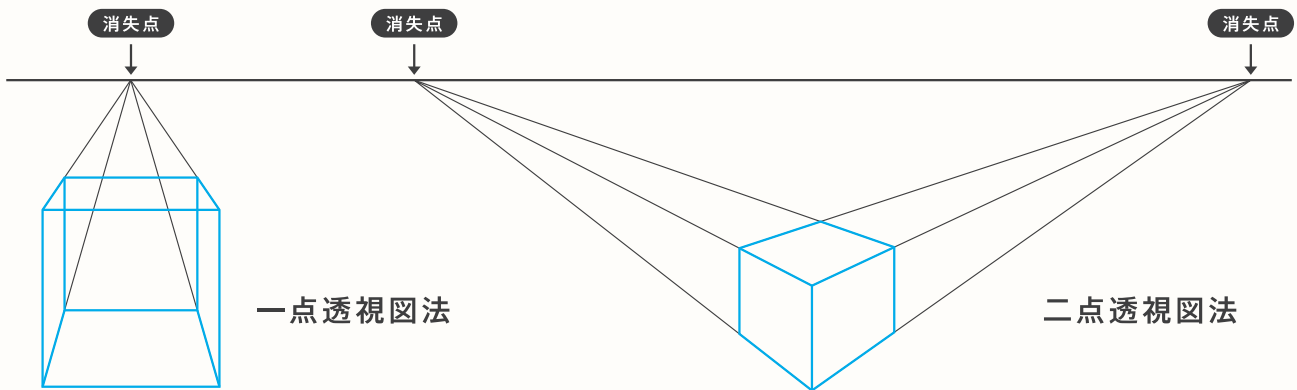
●りんご 1個

POINT
1

パースペクティブ(遠近法)をマスターしよう!

箱状のモチーフを描くときの重要なポイントは「パースペクティブ(遠近法)」です。いわゆる「パース」と呼ばれるものです。近くのは大きく、遠くのは小さく見えるという法則に従い、平行な直線はそれを延長していくと段々と狭くすぼまっていき、やがて1点で交わるという原理です。その交わる点を消失点と呼びます。

例えば下の左図のように、立方体を正面の角度から見た場合、奥行きを示す平行線はそれを延長していくと交わる点が1箇所になります。これを「一点透視図法」といいます。また、下の右図のように、立方体を角の角度から見た場合、奥行きを示す平行線は2方向でき、それらを延長していくとそれぞれに交わる点が2箇所できます。これを「二点透視図法」といいます。箱状のモチーフを描く際には、これらの法則を頭の中で理解しながら形を捉えていくことがとても重要になります。



POINT
2

面の変わり目を捉えよう!

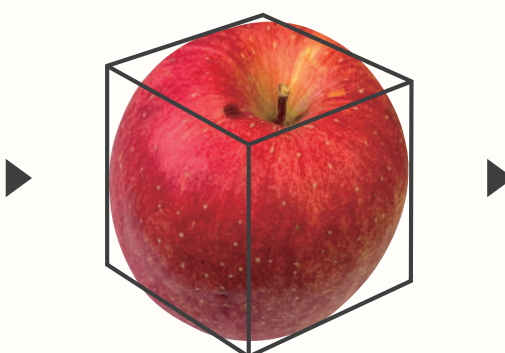
平面の中でものが立体的に見えるように描くためには、そのものがどういう立体的構造をしているかを把握しなければなりません。例えば、りんごを描く際には、りんごを一つの立方体の中に収めたつもりで考えてみるといいでしょう。りんごは一見すると球体の形のように見えますが、よく観察すると面の集合体によって成り立っていることがわかんと思います。それをもっと大まかな面として捉えた場合、立方体の中に収まっているりんごの図のように、上の面、右側面、左側面の三面の構造の中にあることが見て取れると思います。

これらのことを頭の中で理解した上でりんごを描くと、デッサンの写真のように立体的なりんごを描くことができるようになります。デッサンの写真では、りんごの中にある面の変わり目を捉え、その面をつないでいくことによってりんごの立体的な構造を追っていることがわかんでしょう。このように、対象物を立体的に描くためには、面がどこでどのように変化しているのかをよく観察することが重要になります。

りんごの写真



りんごを立方体に収めて考えた図



面の変わり目を捉えたりんごのデッサン



実践デッサン STEP 2

モチーフ

● 円筒形(円柱型)のもの …… 1個

例: 缶、瓶、紙コップ、グラス、ガムテープ、トイレト
ペーパー など

● なす …… 1個

POINT 1 円筒形の描き方をマスターしよう!

円筒形を描く上で重要なことは、上面と底面の楕円を正確に描くことです。楕円とはデッサン上では正円にパースのついた形を示します。「正確な楕円」を描くことが円筒形や円柱型のモチーフを立体的に描くことにつながります。

楕円の基本的な考え方

楕円の長軸、短軸(中心線)は必ず直交します。また、楕円の頂点は中心からそれぞれ等しい距離にあります。どんなに大きな楕円でどの角度から観ても歪まないのがデッサン上の楕円です。(ただし厳密には、遠近法の関係から、手前(下)の△の方が奥(上)の△よりもわずかに長くなるということだけは頭の片隅に留めておいてください。)

悪い例



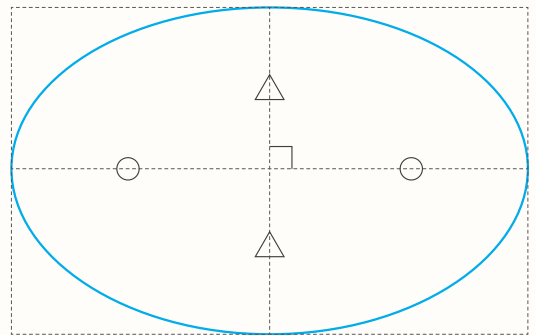
角張っている



尖っている

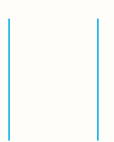


カーブ率が偏っている

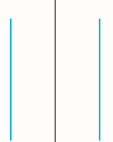


円筒形の描き方

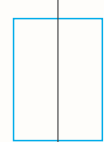
① 円柱の高さと幅を決めます



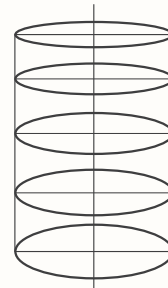
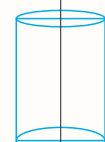
② 中心軸をとります(楕円の短軸)



③ 楕円の長軸をとります



④ 楕円を描きます



楕円はその位置が目線に近い高さにある程狭く見え、目線からの距離が遠ざかる程幅広く見えます。すなわち、円柱の上面と底面とでは楕円のカーブ率が変わることを理解しましょう。透視図のように楕円の幅の変化に注意して隠れた部分も描きましょう。

POINT 2 固有色を捉えよう!

「固有色」とは、自然物、物体、それ自身の色のことを示します。これは、色のついた光源に影響されない白色光の下で見えている色です。そして、固有色にはそれぞれに明るさが伴います。デッサンでは、その明るさの違いによってそれ自体が持つ固有色を表現しなければなりません。つまり、鉛筆の白黒の濃淡による明るさの違いだけで、固有色を表現することになります。

例えば、りんごと梨をモチーフに描くとすれば、その形は似ているかもしれませんが、固有色は大きく異なります。りんごは赤く、梨は薄い黄色をしています。りんごの赤の固有色の方が梨の薄黄色の固有色よりも濃い色で表現しなくてはなりません。さらになすの固有色も見てみましょう。なすの固有色は、かなり黒に近い紫色をしています。したがって、りんごの固有色よりもさらに濃く表現する必要があります。なすを描く際は、4Bくらいの濃い鉛筆を使い、思い切って濃く濃淡をつけながら描いていきましょう。それがなすを描くときのポイントになります。

りんご



梨



なす



実践 デッサン STEP 3

モチーフ

• 野菜や果物などの
自然物

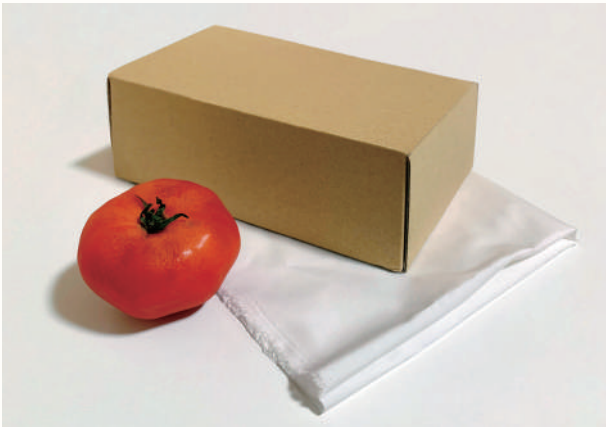
…… 1個

例：かぼちゃ、トマト、バナナ、玉ねぎ、レモン、アボカド、パプリカなど。ある程度ボリュームのあるモチーフが描きやすいでしょう。

POINT 1 モチーフ組みは バランスと関連性を大事に!

3個のモチーフを組むSTEP3では、モチーフのつながりや画面に収めるときのバランス（構図）がとても重要になります。3個のモチーフをバラバラに配置すると、統一感がなくなり散漫な印象になってしまいます。モチーフを組む際には、それぞれの関連性を大事にしながら、画面全体の収まりやバランスを意識して配置を考えましょう。

○ 良い例



モチーフ同士がそれぞれに関連し合い、統一感のあるバランスのとれた構成になっています。モチーフ同士の重なりが明確であるため位置関係がわかりやすく、奥行きや空間を表現しやすくなっています。また、箱も3面が見える角度に向けられているため、立体感が表現しやすい状況を作り出しています。

✕ 悪い例

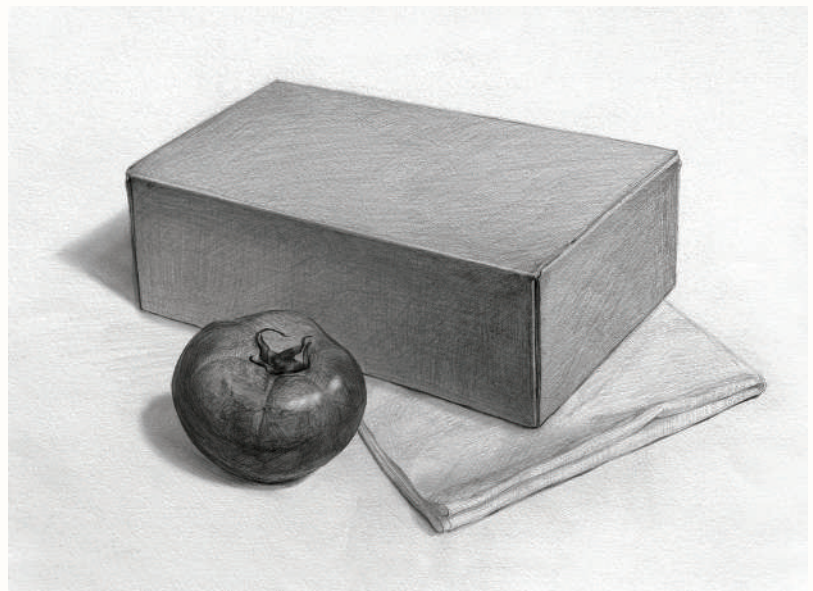


モチーフの配置がバラバラで統一感がなく、散漫な印象です。また、モチーフが画面から大きく切れてしまうのも良くありません。箱状のものは、3面が見える角度に向けた方が立体感を表しやすくなります。布と箱が一点で接していますが、このような状態の配置は避けましょう。違和感が生じると共に、位置関係がわかりにくくなります。

良い例のモチーフ組みで 描いたデッサン

モチーフを組む時点で、画面への収め方（構図）を意識しているため、全体にバランスが良く統一感のあるデッサンになっています。

モチーフを組む際には、構図を意識して組んでいくことがとても重要です。



●人工物のもの
..... 2個

これまでに描いてきた箱状のものや円筒形のを参考に、自分が描きたいものを探してみましょう。例えば、STEP1で「立方体の紙製の箱」、STEP2で「紙コップ」を描いたとしたら、今度は「立方体の木箱」と「瓶」というような新たな組み合わせを考えてみましょう。または、「タオル」や「スカーフ」などの柔らかい素材を取り入れたり、前回うまくいかなかったモチーフで再チャレンジするのも良いでしょう。

POINT
2

モチーフの質感の 描き分けができるようになればバッチリ!

モチーフには、その素材がもつ「質感」があります。トマトであれば、ハリがありつやとした水々しい質感、磨かれたステンレスのような金属であれば、ものが映り込んだり光が反射したりするのがその質感の特徴といえるでしょう。表面の状態を描くことで質感を表現することができます。ただし、注意しなければならないのが、形にそぐわずに表面の状態のみを追って描いてしまうことです。せっかく表現した立体感を壊すことになってしまいますので立体的な形に沿って表面を描いていきましょう。

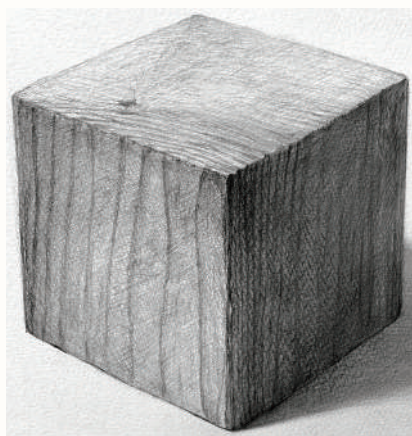
ボトル缶



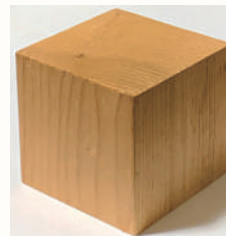
周りのものが映り込むので、それを描いたり、コントラストを強めに描いたりすると、缶の質感が出てきます。



木材



木材の特徴は、なんといっても「木目」です。まずは、立方体の3面の大まかな調子を作り、立体的な構造が出来上がってきたから表面の木目を丁寧に描いていきましょう。



グラス



透明なグラスは透けていて一見難しそうですが、反射しているところを手掛かりに形に沿った調子をつけていくことで、透明でも円筒形を描けます。



タオル



タオルなどの布の特徴は、その柔らかさによってできるシワや折り目にあります。そのシワや折り目によってできる形の変化を捉えながら、布の厚みを描いたり、タオルであれば、表面の毛羽立ちを描くことで質感を表現できます。



皆さん、「描き講習〈テキスト〉」いかがでしたか？

描いたデッサンの添削指導をご希望の方は

「描き講習【オンライン型】」をご利用ください。

本学教員が、オンラインで丁寧に添削をいたします。

指導料
無料！

描き講習【オンライン型】



高校生や既卒生のための
オンラインによるデッサン添削指導です！

Zoomを通じてモチーフのポイントなど
解説や講評を行います！

指導料は無料です！



描いたデッサンは

総合型選抜

学校推薦型
選抜

の自己作品として
使用できます！

※作品指導は、お一人につき3作品までです。

※対象は本学への受験を検討している高校生、既卒生です。

※本学への作品送付料のみご負担ください。
(添削後の返送料は本学が負担します)

描き講習【オンライン型】の流れ



進学相談

相談受付：平日(月・火・木・金) 10:00～16:00

広報担当者が皆さんの質問や
もっと知りたい内容をお答えします。



LINEによる進学相談
友達登録をお願いします



電話による進学相談

045-962-2221

進学相談希望とお伝えください

描き講習
〈テキスト〉

編集・発行・お問い合わせ先

横浜美術大学
広報係

〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1204

TEL:045-962-2221 MAIL:hamabi@yokohama-art.ac.jp